

No	分類	学名	和名	目名	科名	発地域	寄主植物	生態、症状等(媒介性又は被媒介性、系統、変異、国内と海外での被害の差、耐性等に関する情報を含む)	防除	結論	引用文献
1	節足動物	Acheta domesticus	イエコオロギ	バッタ目 (Orthoptera)	コオロギ科 (Gryllidae)	南西アジア地域原産と考えられているが、人為的に広く分布している。	雑食性	鳥類、両生類、爬虫類などの餌として利用されるため、商業的な繁殖が行われている。雑食性で、種子、植物、昆虫を食し、家屋に侵入し、ペットフードを摂食する報告はあるが、農業被害はない。なお、日本未発生病害虫のベクターとなる、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨の報告はない。	農業被害の報告はない。	本害虫は、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。	1) Galloway, Vickie (January 1998). "Raising Crickets". Scarabogram (Scarabs: The Bug Society) (213): 2-3. http://crawford.tardigrade.net/bugs/cricketsuppl.html . 2) Walker T.J. (2007). "House cricket, Acheta domesticus". Featured Creatures. University of Florida/IFAS. http://entnemdept.ufl.edu/creatures/misc/crickets/adomest.html 3) Breeding Crickets". Herp Center. (http://www.herpcenter.com/breeding-feeder-insects/breeding-crickets-2.html) 4) Kulzer, Louise (March 1998). "House Crickets". Scarabogram (Scarabs: The Bug Society) (215): 2-4. http://crawford.tardigrade.net/bugs/BugofMonth31.html . 5) Catalogue of Life
2	節足動物	Aculops lycopersici	トマトサビダニ	ダニ目 (Acari)	Eriophyidae (フシダニ科)	中国、韓国、日本(本州、沖縄)を含む世界中に分布する。	トウガラシ、サツマイモ、トマト、ナス等	25℃における卵から成虫までの発育期間は6~7日。葉、茎、果実に寄生。葉では裏側が褐変して光沢を帯び、裏側あるいは表側に巻き込む。茎も被害部は褐変する。果実表面が灰褐色になり、細かい亀裂が生じる。園芸施設内で多く、露地では少ない。好適条件は約26.5℃、低温に弱く、0℃近い気温では数時間から数日で死亡するため、野外では越冬できない。なお、日本未発生病害虫のベクターとなる、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨の報告はない。	○ハダニを捕食するチリカブリダニの導入。 ○発生を確認したら、早めに薬剤散布を行う(登録農業あり)。	本ダニは、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。	1)CPC 2)全国農村教育協会. 日本農業害虫大事典 3)独立行政法人国立環境研究所. 侵入生物データベース
3	節足動物	Aeolothrips fasciatus	シマアザミウマ	アザミウマ目 (Thysanoptera)	シマアザミウマ科 (Aeolothripidae)	ヨーロッパ、北アメリカ、日本(本州中部以北、北海道)、NZ、オーストラリア、チリ	イネ科、アブラナ科、キク科、バラ科、マメ科	体長は雌約2mm、雄約1.5mm。全体に黒褐色で雄の腹部中央は淡褐色。成虫及び幼虫が花粉を摂食する。コロニー内の個体数は少なく、単独での被害は問題にならない。他のアザミウマ、アブラムシ、ダニを捕食する報告もある。Tospovirusesを媒介する報告はない。なお、日本未発生病害虫のベクターとなる、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨の報告はない。	薬剤散布(アザミウマ類として登録農業がある)。	本害虫は、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。	1)日本農業害虫大辞典、全国農村教育協会 2) Thrips of California (http://keys.lucidcentral.org/keys/v3/thrips_of_california/identify-thrips/key/california-thysanoptera-2012/Media/Html/browse_species/Aeolothrips_fasciatus.htm) 3) CPC 4) 貯穀害虫・天敵図鑑 農研機構
4	節足動物	Aglossa dimidiata	コメノシマメイガ	チョウ目 (Lepidoptera)	メイガ科 (Pyralidae)	日本(日本全国)、朝鮮半島、中国、マレーシア、インド	貯穀害虫、油糧種子	老熟幼虫の体長は23mm内外。頭部は赤褐色、胸部は黒褐色。年2回世代を繰り返す。幼虫態で越冬し、翌春に羽化する。成虫は6~7月と8~10月に出現する。幼虫が穀類貯蔵庫内で穀粒残さ、屑粉などを摂食する。20~30粒程度の穀粒を綴ってその中で食害し、厚い灰色の繭を作って蛹化する。なお、日本未発生病害虫のベクターとなる、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨の報告はない。	食品を加害するため、発生した食品は処分する。被害が広がっている場合には、燻煙剤または全量噴射型エアゾールを室内に充満させる。清掃によって、発生源を除去することが最も大切である。	本害虫は、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。	*1) 河合ら、日本農業害虫大辞典、全国農村教育協会 P981 2) 原色昆虫大図鑑 I 蝶・蛾 北陸館 3) Invasive Species Compendium, online- (http://www.cabi.org/isc/default.aspx?site=144&page=2540&LoadModule1=CABISEARCHRESULTS&LoadAction=LoadAbstract&term=Aglossa+dimidiata&AbstractSearchTerm=Aglossa+dimidiata&query=Aglossa+dimidiata&AbstractID=19901181042)
5	節足動物	Anatrachyntis rileyi	トウモロコシトガリホソガ	チョウ目 (Lepidoptera)	カザリバガ科 (Cosmopterigidae)	米国、メキシコ、ハワイ、南米、コロンビア、オーストラリア、アジア、イギリス、日本(本州、四国、九州、沖縄)、タイ、エジプト	生育中のトウモロコシ、貯蔵中のトウモロコシ、ソルガム、ササゲ、コム	開張9-12 mm。関東地方でも年6世代の発生は可能。前翅は褐色で紫色の線があり、後翅は淡灰色。幼虫は7-8mm、ピンク色で暗褐色の胸部、淡褐色の頭部をもつ。年6回程度世代を繰り返す。幼虫は野菜の廃棄物や傷んだ花、果実等を食する。食物貯蔵施設においても発見される。なお、日本未発生病害虫のベクターとなる、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨の報告はない。	食品を加害するため、発生した食品は処分する。被害が広がっている場合には、燻煙剤または全量噴射型エアゾールを室内に充満させる。清掃によって、発生源を除去することが最も大切である。	本害虫は、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。	1)日本産蛾類総目録 2) 講談社大図鑑 3) O. Saito et al (1992) A New Record of Pink Cornworm, <i>Anatrachyntis rileyi</i> (WALSINGHAM) (Lepidoptera, Cosmopterigidae), a Pest of Corn, from Thailand, with Some Ecological Notes 昆虫 60(2), 463-464 4) 池長ら(2000) 精米施設等におけるトウモロコシトガリホソガの発生とその消長 日本応用動物昆虫学会誌 44(4), 229-234 5) Australian Insects (http://lepidoptera.butterflyhouse.com.au/cosm/rileyi.html) 6) Zimmerman, E. C. (1978). Insects of Hawaii. Vol. 9. Microlepidoptera Part 1. 7)CPC
6	節足動物	Aphis egomae	エゴマアブラムシ	カメムシ目 (Hemiptera)	アブラムシ科 (Aphididae)	日本(本州、四国)、朝鮮半島	しそ、エゴマ、サルビア、フィソステギア、サルビアなど	体長約1mm。体色は淡黄色~淡黄緑色。施設栽培では周年発生。未展開葉や新葉の裏に寄生して吸汁する。加害された葉は著しく変形し、縮れたり裏側に巻いたりする。萎縮した葉の中にコロニーを作る。なお、日本未発生病害虫のベクターとなる、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨の報告はない。	薬剤散布(登録農業がある。シソのアブラムシ類)	本害虫は、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。	日本原色アブラムシ図鑑(全国農村教育協会) ¹⁾ 高知の元気の源こうち農業ネット (http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.jp/info/dtl.php?ID=3438)高知県農業振興部 ²⁾

No	分類	学名	和名	目名	科名	発生地域	寄主植物	生態、症状等(媒介性又は被媒介性、系統、変異、国内と海外での被害の差、耐性等に関する情報を含む)	防除	結論	引用文献
7	節足動物	Baryrhynchus poweri	ミツギリソウムシ	コウチュウ目 (Coleoptera)	ミツギリソウムシ科 (Brentidae)	日本(本州、四国、九州、沖縄、台湾、南西諸島)、台湾、インドシナ半島	広葉樹の朽ち木	広葉樹朽木の樹皮下に生息する。成虫の体長は10.6 - 23.5 mm。成虫は枯木に穴をあけて産卵し、幼虫は材に穿孔する。本種による国内外で被害の報告はない。 なお、日本未発生病害虫のベクターとなる、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨の報告はない。	本種による実害はない。	本害虫は、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。	1)原色昆虫大図鑑 2)世界大百科事典 第2版の解説、online- (http://kotobank.jp/word/%E3%83%9F%E3%83%84%E3%82%AE%E3%83%A0%E3%82%BE%E3%82%A6%E3%83%A0%E3%82%B7) 3)しまねレッドデータブック、online- (http://www1.pref.shimane.lg.jp/contents/rdb/rdb2/cnt/cnt171f.html)
8	節足動物	Borboryctis euryae	ヒサカキホソガ	チョウ目 (Lepidoptera)	ホソガ科 (Gracillariidae)	日本(本州、四国、九州、対馬)、中国、韓国	ヒサカキ(Eurya japonica)、ハマヒサカキ(Eurya emarginata)	開張6.9-8.1mm。幼虫は葉を食害し、植物にごぶ(虫えい)を作らせ、その中で越冬する。本種による国内外で被害の報告はない。 なお、日本未発生病害虫のベクターとなる、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨の報告はない。	本種による実害はない。	本害虫は、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。	1) T. Kumata et al(1988), Japanese species of the Acrocercops-group (Lepidoptera:Gracillariidae), Insecta Matsumurana New Series 40: 39-42,101-103, (1-133) 2) http://www.jpmoth.org/Gracillariidae/Gracillariinae/Borboryctis_euryae.html 3) 日本産蛾類総目録
9	節足動物	Brevipalpus russulus	サポテンヒメハダニ	ダニ目 (Acari)	Tenuipalpidae ヒメハダニ科	ヨーロッパ、南北アメリカ、メキシコ、ニュージーランド、日本(九州以北)、ベルギー、フランス、オランダ、ペルー、米国	サポテン、多肉植物	雌は体長0.3mm内外、雄0.26mm。赤色で背面から見ると楕円形、雄は雌よりやや小さい。サポテンを吸汁する。 なお、日本未発生病害虫のベクターとなる、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨の報告はない。	薬剤散布	本ダニは、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。	1)日本農業害虫大辞典 2)日本ダニ類図鑑 3) E. Ashley et al (1987) The occurrence of Brevipalpus essigi and B. russulus (Acari: Tenuipalpidae) in New Zealand. New Zealand Entomologist, 1987, Vol. 10
10	節足動物	Ceuthorrhynchidius albosuturalis	ダイコンサルゾウムシ	コウチュウ目 (Coleoptera)	ゾウムシ科 (Curculionidae)	中国、韓国、日本(北海道、本州、四国、九州)	ダイコン、ナタネ、ナズナ等	成虫は体長2.2~2.5mm。吻は細長く、触角中間節は6節である。ダイコンサルゾウムシは古くからナタネやダイコンなどの種子害虫として知られ、産卵された若い莢からふ化した幼虫が、莢の内部を食害する。幼虫は花茎や葉柄内にも食入する。 なお、日本未発生病害虫のベクターとなる、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨の報告はない。	苗床では、防虫網(1mm程度)や寒冷紗などで成虫の侵入を防ぐ。	本害虫は、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。	1)梅谷献二、岡田利承 (2003)全国農林教育協会 2)Hong KiJeong; Egorov, A. B.; Woo KunSuk(2000)、(online)- available from (Wolters Kluwer Health online: http://ovidsp.ovid.com/) 3)日本農業害虫大辞典
11	節足動物	Chilo luteellus	ヨシツトガ	チョウ目 (Lepidoptera)	ツトガ科 (Crambidae)	朝鮮、中国、日本(北海道、本州、四国、九州)、ヨーロッパ、アフリカ	ヨシ、ツルヨシ	成虫の開張約25~33mm。ヨシが生えている湿地で年2回世代を繰り返す。幼虫は茎内に穿孔する。本種による国内外で被害の報告はない。 なお、日本未発生病害虫のベクターとなる、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨の報告はない。	本種による実害はない。	本害虫は、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。	1)日本産蛾類図鑑 http://www.jpmoth.org/index.html 2)北隆館 原色昆虫大図鑑 3)九州大学、日本産昆虫目録データベース(MOKUROKU), http://konchudb.agr.kyushu-u.ac.jp/index-j.html
12	節足動物	Chilo suppressalis	ニカメイガ	チョウ目 (Lepidoptera)	ツトガ科 (Crambidae)	日本(北海道、本州、四国、九州、南西諸島)、朝鮮半島、中国、台湾、東南アジア、インド、スリランカ、ハワイ、南ヨーロッパ	イネ、トウモロコシ、キビ、ガマ、マコモ	雌成虫の体長は15~17mm、開張は23~26mm。前翅は灰黄色で、ふちに七つの小さな黒点がある。後翅は白色。雄成虫はやや小さく体長は13~15mm、開張は21~23mm。年2回世代を繰り返す。雌成虫は交尾後1~2日から産卵し平均約300粒、数10粒ずつ卵塊としてイネやマコモ等の葉表に産卵する。幼虫が茎や葉鞘に食入する。幼虫でワラや刈り株内で越冬する。 なお、日本未発生病害虫のベクターとなる、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨の報告はない。	薬剤散布(登録農薬がある)	本害虫は、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。	1)日本農業害虫大辞典 2)講談社大図鑑
13	節足動物	Chrysodeixis eriosoma	イチジクキンウワバ	チョウ目 (Lepidoptera)	ヤガ科 (Noctuidae)	日本(北海道、本州、小笠原、四国、九州、南西諸島)、台湾、アジア、太平洋地域、オーストラリア、ニュージーランド、タスマニア	ゴボウ、ノカラムシ、ダイズ、スイートピー、シロクローバ、ゼラニウム、オランダイチゴ	終齢幼虫は35-40mm。成虫が7月下旬~8月中旬、9月中旬~10月に見られるが、暖地では周年発生している。幼虫が葉を摂食する。 なお、日本未発生病害虫のベクターとなる、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨の報告はない。	薬剤散布(登録農薬がある)	本害虫は、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。	1)日本産蛾類大図鑑、講談社 2)九大目録 3)農林有害動物・昆虫名鑑 増補改訂版 4)畜産草地研究所、飼料作物害虫目録、 http://www.naro.affrc.go.jp/niilgs/d-base/index.html 5)Hardy et al., 1982, Insect pest occurrences in Tasmania 1980/81., 6)防除ハンドブック 花の病害虫

No	分類	学名	和名	目名	科名	発地域	寄主植物	生態、症状等(媒介性又は被媒介性、系統、変異、国内と海外での被害の差、耐性等に関する情報を含む)	防除	結論	引用文献
14	節足動物	Clepsia pallidana	アカスジキイロハマキ	チョウ目 (Lepidoptera)	ハマキガ科 (Tortricidae)	ヨーロッパ、イラン、ロシア、モンゴル、中国、朝鮮半島、日本(北海道、本州、九州)	ダイズ、リンゴ(苗木)、アルファルファ、シロクロバ、リンドウ	終齢幼虫は15mmを超える。開張13.5-18mm。成虫は北海道で6~9月、東北地方で5月末~10月に出現し、年2~3世代を経過する。幼虫はキク科を主とする広葉の草本の梢頭を綴るほか、展開した葉は2枚を重ね、あるいは乱雑に巻いた中で食害し、まれには低木の枝に発生することがある草原性の蛾で、とくに河川敷や海岸後背草地などで見かけることが多い。成虫は夕暮れ時から活動的になり、夜間に電灯に集まる。なお、日本未発生病害虫のベクターとなる、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨の報告はない。	薬剤散布(登録農薬がある)	本害虫は、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。	1) 講談社大図鑑 2) 北陸館大図鑑 3) ZipcodeZoo 4) Catalogue of the Lepidoptera of Belgium, Flemish Entomological Society 5) 日本農業害虫大辞典
15	節足動物	Crociodolomia pavonana	ケブカニセノメイガ	チョウ目 (Lepidoptera)	ツトガ科 (Crambidae)	日本(本州、対馬、沖縄)、南アフリカ~インド、インドネシア、ベトナム、台湾、オーストラリア、クック諸島、グアム	カリフラワー、キャベツ、ダイコン、ハクサイ、ブロッコリーなどアブラナ科野菜、クレオメ、ハボタン、キュウリ、メロン、スイカなどウリ科、レタスなどのキク科	幼虫の体長は約15mm、成虫は全体黄褐色で開張は約25mm。休眠性はなく年数回世代を繰り返す。幼虫が葉を摂食する。幼虫は4齢を経過し、葉上あるいは地表面で葉や土を巻きこんだ薄い繭を作り、その中で蛹化する。なお、日本未発生病害虫のベクターとなる、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨の報告はない。	発生初期にコロニーを見つけて取り去る。防虫網や寒冷紗などにより成虫の侵入を防ぐ。	本害虫は、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。	1) 日本農業害虫大辞典 2) 九州大学, 日本産昆虫目録データベース(MOKUROKU), <http://konchudb.agr.agr.kyushu-u.ac.jp/index-j.html> 3) CPC 4) 防除ハンドブック アブラナ科野菜の病害虫
16	節足動物	Cryptophilus obliteratus	ヒラナガムクゲキスイ	コウチュウ目 (Coleoptera)	コムツキモドキ科 (Languriidae)	日本を含む世界各地	カビの生えた貯穀類や木材等。	黄褐色で3mm程度の食菌性甲虫。野外ではカビの発生しやすい堆肥や干草など、屋内では食品貯蔵庫、製粉工場から発見されている。カビなどの生えたところで発生している可能性がある。本種による国内外で被害の報告はない。なお、日本未発生病害虫のベクターとなる、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨の報告はない。	本種による実害はない。	本害虫は、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。	1) 福田(1989) 新築家屋の畳から発生したヒラナガムクゲキスイ 家屋害虫 11(1), 54, 2) 名古屋市衛生研究所, - online(http://www.city.nagoya.jp/kenkofukushi/page/000006099.html) 3) 原色昆虫大図鑑 4) Invasive Species Compendium, 2011 5) 日本家屋害虫学会編(1995) 家屋害虫事典. 井上書院, 468pp
17	節足動物	Diaphania indica	ワタヘリクロノメイガ	チョウ目 (Lepidoptera)	ツトガ科 (Crambidae)	日本全国、朝鮮半島、中国、台湾を含む世界中に発生	オクラ、ワタ、ムクゲ、フヨウ、キュウリ、メロン、シロウリ、スイカ、カボチャ、ヘチマ、ニガウリ等	成熟幼虫の体長は23~25mm。成虫は開張は約25mm。5~10月にかけて数世代発生する。夏季の発生が多い。低温に弱いが、関東以西では幼虫態で越冬可能と推定されている。幼虫は大きくなると葉、花、茎も食する。なお、日本未発生病害虫のベクターとなる、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨の報告はない。	農薬散布(登録農薬がある)	本害虫は、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。	1) 日本農業害虫大辞典 2) 九州大学, 日本産昆虫目録データベース(MOKUROKU), <http://konchudb.agr.agr.kyushu-u.ac.jp/index-j.html> 3) CPC 4) 防除ハンドブック 菜園の病害虫
18	節足動物	Dryocoetes baikalicus	グイマツアトマルキクイムシ	コウチュウ目 (Coleoptera)	キクイムシ科 (Scolytidae)	日本(本州)、サハリン、シベリア、モンゴル、ルーマニア	カラマツ属、モミ属、マツ属	成虫の体長は3.0~3.2mm。幼虫が樹皮下に穿孔する。なお、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨、及び被害の差がある報告はない。	管理により樹勢強化に努める。	本害虫は、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。	1) 九州大学, 日本産昆虫目録データベース(MOKUROKU), (http://konchudb.agr.agr.kyushu-u.ac.jp/index-j.html) 2) 野淵輝(1981) 外材のキクイムシ類 下 わかりやすい林業研究所解説シリーズNo. 67. 林業科学技術振興所 3) EPPO (2007). EPPO Reporting Service. Studies, 098. 4) D.E.Bright and R.E.Skidmore(2002) A Catalog of Scolytidae and Platypodidae (Coleoptera), Supplement 2 (1995-1999) 5) 後藤秀章. (2009). 日本産キクイムシ類分類学研究の歴史と種のリスト. 日本森林学会誌, 91(6), 479-485. 6) 日本応用動物昆虫学会(2006) 農林有害動物・昆虫名鑑増補改訂版. (社) 日本植物防疫協会. 東京. 78pp.
19	節足動物	Dryocoetes rugicollis	アトマルキクイムシ	コウチュウ目 (Coleoptera)	キクイムシ科 (Scolytidae)	クリル諸島、サハリン、シベリア、日本(北海道、本州、四国)、中国	ヨーロッパクロマツ、エゾマツ	成虫の体長は4.0mm前後。幼虫が幹を穿孔するが、本種による実害はない。なお、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨、及び被害の差がある報告はない。	管理により樹勢強化に努める。	本害虫は、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。	1) 後藤(2009) 日本産キクイムシ類分類学研究の歴史と種のリスト 日林誌 91:479-485 2) Sawamoto, T.(1940) On the bark beetles of Black Pine in Hokkaido. Insecta Matsumurana Vol. 14 pp. 141-8 3) 九州大学, 日本産昆虫目録データベース(MOKUROKU), <http://konchudb.agr.agr.kyushu-u.ac.jp/index-j.html>
20	節足動物	Dryocoetes striatus	トドマツアトマルキクイムシ	コウチュウ目 (Coleoptera)	キクイムシ科 (Scolytidae)	ロシア(シベリア)、サハリン)、日本(北海道、本州)、中国	モミ属	成虫の体長は3.0~3.2mm。幼虫が幹を穿孔するが、本種による実害はない。なお、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨、及び被害の差がある報告はない。	管理により樹勢強化に努める。	本害虫は、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。	1) 九州大学, 日本産昆虫目録データベース(MOKUROKU), <http://konchudb.agr.agr.kyushu-u.ac.jp/index-j.html> 2) 野淵輝(1981) 外材のキクイムシ類 下 わかりやすい林業研究所解説シリーズNo. 67. 林業科学技術振興所

No	分類	学名	和名	目名	科名	発地域	寄主植物	生態、症状等(媒介性又は被媒介性、系統、変異、国内と海外での被害の差、耐性等に関する情報を含む)	防除	結論	引用文献
21	節足動物	Dudua aprobola	オオセンダンヒメハマキ	チョウ目 (Lepidoptera)	ハマキガ科 (Tortricidae)	アジアに広く、日本(四国、小笠原、南西諸島、南大東)、中国、台湾、インド、ベトナム、タイ、マレーシア、フィリピン、ミクロネシア、トンガ、オーストラリア、バブア・ニューギニア	タイワンネムノキ、レイシ、リュウガン、マンゴウ	成虫開張17-20mm。幼虫が若い葉、花を摂食する。本種による国内外で被害の報告はない。本種による国内外で被害の報告はない。なお、日本未発生病害虫のベクターとなる、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨の報告はない。	本種による実害はない。	本害虫は、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。	1) 日本産蛾類総目録 2) 講談社大図鑑 3) CPC 4) R. Rajeev et al (2012) Effect of abiotic factors on the incidence of litchi leaf roller, Dudua aprobola Meyrick (Lepidoptera: Tortricidae) in Bihar Pest Management in Horticultural Ecosystem Vol 18, No 2 5) Zhou Zhong Shi et al (2006) Natural enemies of leaf rollers on longan and litchi and their control efficiency. Chinese Journal of Biological Control Vol. 22 No. 1 pp. 78-80 6) Wongphan Promwong et al (2011) New Records of Two Olethreutini Species (Lepidoptera: Tortricidae: Olethreutinae) from Khao Nan National Park, Thailand. The Thailand Natural History Museum Journal 5(1): 67-82 7) Catalogue of Life (2013/10/31調査) 8) 九大目録 9) みんなで作る蛾類図鑑 (2013/10/31調査) 10) Marianne Horak(2006) Olethreutine Moths of Australia: (Lepidoptera: Tortricidae) CSIRO p138
22	節足動物	Empoasca vitis	エンポアスカ・ウイティス	カメムシ目 (Hemiptera)	ヨコバイ科 (Cicadellidae)	アルメニア、アゼルバイジャン、中国、グルジア、インド、インドネシア、イスラエル、日本(本州、四国、九州)、北朝鮮、韓国、マレーシア、ミャンマー、タジキスタン、タイ、トルコ、ウズベキスタン、ベトナム、アルジェリア、エジプト、オーストリア、ベルギー、ブルガリア、旧チェコスロバキア、デンマーク、フィンランド、フランス、ドイツ、ハンガリー、アイルランド、イタリア、モルドバ、オランダ、ノルウェー、ポーランド、ポルトガル、ルーマニア、ロシア、スペイン、スウェーデン、スイス、ウクライナ、英国、旧ユーゴスラビア	キウイフルーツ、パレイシヨ、ブドウ、チャノキ、テンサイ、サトウキビ、タバコ、ワタ、ホップ等	体長は約3mm。雄雌成虫は常緑植物上で越冬し、翌春に寄主植物へ移動する。イタリアでは年3回世代を繰り返す。幼虫及び成虫がブドウの葉の葉脈を摂食する。なお、日本未発生病害虫のベクターとなる、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨の報告はない。	○誘殺板を使用 ○薬剤散布	本害虫は、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。	1) CPC 2) Fornasiero D et al (2012) Effects of irrigation on the seasonal abundance of Empoasca vitis in north-Italian vineyards. J Econ Entomol. Vol 105(1):176-85. 3) A. Reineke et al (2012) Larval development of Empoasca vitis and Edwardsiana rosae (Homoptera: Cicadellidae) at different temperatures on grapevine leaves. Journal of Applied Entomology Vol136(9): 656-664 4) Herrmann, J.V., Eichler, P. (2000): Epidemiological studies of the Grape Leafhopper Empoasca vitis GOETHE and its antagonistic egg parasitoids in the Franconian wine growing region (Germany). IOBC/wrps Bulletin Vol.23: 115-121)
23	節足動物	Eumerus strigatus	ハイジマハナアブ	ハエ目 (Diptera)	ハナアブ科 (Syrphidae)	全北区に含まれるヨーロッパ、米国、日本(九州以北)、豪州	アマリリス、ヒヤシンス、ガルトニア、リュウコジウム、リコリス、ガランサス、ムスカリ、アイリス、ユリ、タマニギ、ジャガイモ	成虫の体長は7~8mm。全体黒色で鈍い光沢がある。幼虫は汚黄色で、体長約10mm。成虫は5~6月ごろ、地際部の葉の付け根や球根頸部に産卵する。幼虫は球根頂部から内部に侵入し、鱗片を食する。なお、日本未発生病害虫のベクターとなる、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨の報告はない。	○薬剤散布(登録農薬がある)。 ○被害を受けた球根はいずれ腐敗するし、これが発生源となるから、早急に焼却又は埋没する。 ○温湯処理の効果が高い。43℃の温湯に2時間浸漬する。	本害虫は、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。	1) 日本農業害虫大辞典、全国農村教育協会 2) CPC
24	節足動物	Eutetrappa sedecimpunctata	シナカミキリ	コウチュウ目 (Coleoptera)	カミキリムシ科 (Cerambycidae)	日本各地、中国東北部、ロシア、シベリア、サハリン、朝鮮半島	シナノキ、ケヤマハンノキ、ヤマブドウ	体長14~20mm。成虫は黒色で黄褐色の軟毛で覆われる。1年1世代。シナノキ、ケヤマハンノキの衰弱木や伐採木に飛来して産卵する。本種による国内外で被害の報告はない。なお、日本未発生病害虫のベクターとなる、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨の報告はない。	本種による実害はない。	本害虫は、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。	1) 原色昆虫大図鑑 2) 森林昆虫 3) Catalogue of life, online- (http://www.catalogueoflife.org/col/details/species/id/9605529)
25	節足動物	Euwallacea interjectus	アイノクイムシ	コウチュウ目 (Coleoptera)	クイムシ科 (Scolytidae)	ミャンマー、インド、インドネシア、マレーシア、ネパール、フィリピン、スリランカ、ネパール、ベトナム、中国、台湾、日本(本州、九州)、米国、ハワイ	オオバギ属の1種(Macaranga denticulata)、カカツガユ、キワタ、シイ属の1種(Castanopsis indica)、トネリコバノカエデ、パラゴムノキ、パラミツ、マンゴウ、ユーフォルビア属の1種(Euphorbia royleana)、イチジク属、サラノキ属、ピンポンキ属、モモタマノ属	成虫は体長約4mmの黒色の甲虫であり、細長い米俵のような形をしている。年2回世代を繰り返す。イチジクでは樹幹部にペン先ほどの穴を多数開ける。本種はイチジク枯病菌(Ceratocystis ficiicola)(日本既発生)を媒介する可能性が指摘されている。なお、日本未発生病害虫のベクターとなる、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨の報告はない。	○農薬塗布・散布(登録農薬がある)。 ○管理により樹勢強化に努める。	本害虫は、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。	1) 九州大学、日本産昆虫目録データベース(MOKUROKU), <http://konchudb.agr.agr.kyushu-u.ac.jp/index-j.html> 2) 野淵輝(1980) 外材のクイムシ類上 わかりやすい林業研究所解説シリーズNo. 66. 林業科学技術振興所 3) Xyleborini Ambrosia Beetles, <http://xyleborini.myspecies.info/> 4) 森田 剛成、軸丸 祥大(2013)各地で話題となった病害虫のその後、植物防疫所病害虫情報 第100号 5) 森田剛成、原敬和、& 見世大作。(2012). アイノクイムシが介在したイチジク枯病の激害化事例. 関西病害虫研究会報, (54), 29-34. 6) Bark and Ambrosia Beetles of the US and Canada http://www.barkbeetles.info/us_canada_chklist_target_species.php?lookUp=1966

No	分類	学名	和名	目名	科名	発地域	寄主植物	生態、症状等(媒介性又は被媒介性、系統、変異、国内と海外での被害の差、耐性等に関する情報を含む)	防除	結論	引用文献
26	節足動物	Gnathocerus maxillosus	コツノコクヌストモドキ	コウチュウ目 (Coleoptera)	ゴミムシ目科 Tenebrionidae	日本(九州)、フィリピン、ヨーロッパ、北部アジア	貯蔵こく類等の粉	成虫の大きさは3~4 mm。年5回程度世代を繰り返す。成虫及び幼虫は、貯蔵害虫等が食した穀粒の残さを二次的に食する。本種による国内外で被害の報告はない。 なお、日本未発生病害虫のベクターとなる、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨の報告はない。	本種による被害はない。	本害虫は、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。	1)九州大学, 日本産昆虫目録データベース(MOKUROKU), (http://konchudb.agr.kyushu-u.ac.jp/index-j.html) 2)McLellan, Clare (2013) Slenderhorned flour beetle(Gnathocerus maxillosus)Updated on 2/21/2013 Available online: PaDIL - http://www.padil.gov.au
27	節足動物	Haplothrips gowdeyi	アカオビハナクダアザミウマ	アザミウマ目 (Thysanoptera)	クダアザミウマ科 (Phlaeothripidae)	世界中、特に熱帯、亜熱帯地域に広く分布。また、米国、日本(本州、小笠原、南西諸島)を含む温帯地域にも侵入している。	様々な植物の花で見つかるが、寄主植物は特定されていない。	雌成虫の体長約2mm、体色は腿節を含め暗褐色。花の内部に寄生しているが、完全な植食性なのか、捕食性となる場合もあるのかは明らかではない。国内外で本種による被害の報告はない。Tospovirusesを媒介する報告もない。 なお、日本未発生病害虫のベクターとなる、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨の報告はない。	本種による被害はない。	本害虫は、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。	1)Haddle, M. S., Mound, L. A. & Paris, D. (2012) Thrips of California. http://keys.lucidcentral.org/keys/v3/thrips_of_california/authors/authors.html Mound, L. A. & Minaei, K. (2007) Australian thrips of the Haplothrips lineage (Insecta, Thysanoptera). Journal of Natural History, 41(45-48): 2919-2978. Okajima, S. (2006) The suborder Tubulifera. The insects of Japan, 2: 1-720. Pitkin, B. R. (1976) A revision of the Indian species of Haplothrips and related genera (Thysanoptera, Phlaeothripidae). Bulletin of the British Museum (Natural History) Entomology 34:223-280.) 福島産アザミウマリスト (http://www2.educ.fukushima-u.ac.jp/~tsutsumi/thrips-list-fukushima.html)
28	節足動物	Hellula undalis	ハイマダラノメイガ	チョウ目 (Lepidoptera)	ツトガ科 (Crambidae)	日本(北海道、本州、小笠原、四国、九州、南西諸島)、台湾、中国、インド、東南アジア、ヨーロッパ、アフリカ	ダイコン、カブ、ハクサイ、キャベツなどのアブラナ科野菜	成虫は前翅長7~9mm、前翅は灰褐色、全面に細かい斑紋があり、後翅は白っぽい。老熟幼虫は14mm。蛹は8mmで褐色。成虫が葉柄の隙間で越冬するが、蛹態でも土中で越冬する。暖地では年6回世代を繰り返す。幼虫が幼植物の芯部に食入する。 なお、日本未発生病害虫のベクターとなる、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨の報告はない。	薬剤散布(登録農薬がある)。	本害虫は、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。	1) 日本農業害虫大辞典 2) 講談社大図鑑 3) 防除ハンドブック 菜園の病害虫
29	節足動物	Hemiberlesia cyanophylli	シュロマルカイガラムシ	カメムシ目 (Hemiptera)	マルカイガラムシ科 (Diaspididae)	日本を含む世界中の熱帯、亜熱帯及び温室に分布。	広食性でグアバ、ソテツ、ガジュマル、アボガド、ヒメツバキ、キツタ、ヤシ類、シュロチク、カンノンチク、アナナス類、オリヅルラン、ストレリチア、カラテア、ラン類	雌成虫の介殻はほぼ円形で大きさは2mm内外。年数回世代を繰り返す。年間を通じて発生。幼虫と雌成虫が葉の裏面に寄生する。 なお、日本未発生病害虫のベクターとなる、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨の報告はない。	○発生の少ない時期にこすり落とすほか、天敵の利用 ○薬剤散布(登録農薬がある)。	本害虫は、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。	1)梅谷ら、日本農業害虫大辞典、全国農村教育協会
30	節足動物	Hylesinus nobilis	ヤチダモノオキクイムシ	コウチュウ目 (Coleoptera)	キクイムシ科 (Scolytidae)	日本(北海道、本州、九州)、シベリア	トネリコ属、ヤチダモ、アオダモ	成虫の大きさは4.6-5.3mm。成虫は樹皮下に産卵。孵化した幼虫が樹皮下を穿孔するが、本種による国内外で被害の報告はない。 なお、日本未発生病害虫のベクターとなる、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨の報告はない。	本種による被害はない。	本害虫は、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。	1)九州大学, 日本産昆虫目録データベース(MOKUROKU), (http://konchudb.agr.kyushu-u.ac.jp/index-j.html) 2)後藤秀章 (2009) 日本産キクイムシ類分類学研究的歴史と種のリスト, 日林誌91. 479- 485. 3)林, 森本, 木元 (1989) 原色日本昆虫図鑑(IV), 保育社:355pp
31	節足動物	Hypera nigrirostris	ツメクサタコゾウムシ	コウチュウ目 (Coleoptera)	ゾウムシ科 (Curculionidae)	全北區に広く分布。ヨーロッパ~シベリア、北米、日本(北海道、本州)	マメ科牧草(シロクローバ・アカクローバ・アルサイクローバ・クリムソクローバ、ラジノクローバ、アルファルファ(葉・花)、チモシー、大豆の葉	成虫は緑色で体長3.7mm、長卵形で頭は小さく、ゆるやかに湾曲した円筒形の口吻を持つ年1世代で成虫で越冬する。成虫はクローバに産卵。幼虫はクローバを摂食して育ち、新成虫となる。食物が不足した場合、ダイズ畑に移動し、芽、葉、莖を摂食することがある。 なお、日本未発生病害虫のベクターとなる、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨の報告はない。	薬剤散布	本害虫は、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。	1)Stein, W. (1977) The connection between habitat age and the occurrence of short-winged forms in populations of dimorphic weevil species (online),- available-from (Wolters Kluwer Health online: http://ovidsp.ovid.com/) 2)坂本与一、(1962)ツメクサタコゾウムシの食餌植物について(予報)(昭和37年度日本農学会大会分科会)

No	分類	学名	和名	目名	科名	発生地	寄主植物	生態、症状等(媒介性又は被媒介性、系統、変異、国内と海外での被害の差、耐性等に関する情報を含む)	防除	結論	引用文献
32	節足動物	Lepidosaphes euryae	サカキカキカイガラムシ	カメムシ目 (Hemiptera)	マルカイガラムシ科 (Diaspididae)	中国、日本(本州、四国、九州、薩南諸島)、ベトナム	ニシキギ属の1種 (Euonymus radicans)、マサキ、サカキ属の1種 (Cleyera ochracea)、Eurya ochracea; ヒサカキ、ハマヒサカキ、サカキ、マサキ、ツルマサキ、チャノキ、ツバキ、クロキ等	雌成虫の体長は1.35mmで幅0.6mmで淡褐色。雌成虫の介殻の長さ3~4mmで、後方に向けて広がる。濃褐色。葉を吸汁する。 なお、日本未発生病害虫のベクターとなる、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨の報告はない。	薬剤散布	本害虫は、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。	1) ScaleNet(http://scalenet.info/validname/Lepidosaphes/euryae/) 2) 日本原色カイガラムシ図鑑 Y Murakami (1970), A review of biology and ecology of diaspine scales in Japan (Homoptera, Coccoidea), Mushi 43(7): 82, (65-114)(見つからない) 3) 進士織平(1940), 盛岡産有殻介殻虫の目録[A preliminary list of the armed scale insects of Morioka, Japan](in Japanese), 昆虫(KONTYU) 10(2): 94-95, (93-98) 酒井久馬(1929), 鹿児島地方に産する介殻虫の種類と其被害植物目録(豫報)(in Japanese), 昆虫(KONTYU) 3(2): 125, (121-130)(見つからない) T. Tachikawa (1962), Scale insects of Shikoku, II (Homoptera: Coccoidea), Transactions of the Shikoku Entomological Society 7: 78, (77-78)
33	節足動物	Lepidosaphes tokionis	クロトンカキカイガラムシ	カメムシ目 (Hemiptera)	マルカイガラムシ科 (Diaspididae)	マダガスカル、モザンビーク、レユニオン、セイシェル、タンザニア、豪州、ミクロネシア連邦、フィジー、グアム、ハワイ、パラオ、バプアニューギニア、トンガ、西サモア、メキシコ、米国、インド、インドネシア、フィリピン、シンガポール、スリランカ、台湾、タイ、日本各地、バミューダ、バルバドス、キューバ	コルジリネ属の1種 (Cordylone terminalis)、アンズリウム属、クロトンキ属、ワタ属等	雌の介殻は、大きさ2.5mm前後、茶褐色、後方に向かってやや広がる。雄の介殻は雌に似るが小型で細い。年数回世代を繰り返す。枝、幹、葉など地上部の各部位に寄生する。 なお、日本未発生病害虫のベクターとなる、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨の報告はない。	薬剤散布	本害虫は、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。	1) 日本農業害虫大辞典、全国農村教育協会 2) Scale Net 3) PaDIL Species Factsheet
34	節足動物	Lepidosaphes tubulorum	クロカキカイガラムシ	カメムシ目 (Hemiptera)	マルカイガラムシ科 (Diaspididae)	日本全国、台湾、朝鮮半島、中国	広食性でナン類、カキ (Diospyros kaki)、クリ、アジサイ、シラカバ、ハルニレ、ガクアジサイ、タマアジサイ、ヤマアジサイ、イワガラミ、ウツギ、イヌツゲ、ソヨゴ、イタヤカエデ、キブシ、アセビ、ミヤマイボタ、ニシキウツギ、イボタノキ、ヤマハウシ、ナンキンハゼ)等	雄の介殻は暗紫褐~紫黒色、細長く後方に向かってわずかに広がる。大きさは3~4mm。年1世代で、本害虫の介殻下に産み付けられた卵で越冬する。幼虫、雌成虫が枝、幹に寄生する。 なお、日本未発生病害虫のベクターとなる、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨の報告はない。	薬剤散布(登録農薬がある)	本害虫は、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。	1) 日本農業害虫大辞典、全国農村教育協会 2) 日本原色カイガラムシ図鑑 3) 進士織平(1940), 盛岡産有殻介殻虫の目録[A preliminary list of the armed scale insects of Morioka, Japan](in Japanese), 昆虫(KONTYU) 10(2): 94-95, (93-98) 4) R Takahasi(1936) Some Coccidae from Formosa and Japan (Homoptera) I, Mushi 9(1): 7, (1-8)(見つからない) 5) Y Murakami (1970), A review of biology and ecology of diaspine scales in Japan (Homoptera, Coccoidea), Mushi 43(7): 84-85, (65-114)(見つからない) 6) S Takagi (1960), A contribution to the knowledge of the Diaspidini of Japan (Homoptera : Coccoidea) part I, Insecta Matsumurana 23(2): 90-94, (67-100) 7) S Takagi (1970), Diaspididae of Taiwan based on material collected in connection with the Japan-U.S. co-operative science programme, 1965 (Homoptera: Coccoidea) Part II, Insecta Matsumurana 33(1): 137, (1-142)
35	節足動物	Liriomyza bryoniae	ナスハモグリバエ	ハエ目 (Diptera)	ハモグリバエ科 (Agromyzidae)	エジプト、モロッコ、日本(北海道、本州)を含むアジア地域、欧州	ナス科、ウリ科、アブラナ科など20科以上の植物を加害する。	成虫の体長は1.7~2.0mm。老熟幼虫は黄色で体長2.5mm。蛹は黄褐色2mm。年数回世代を繰り返す。苗による持ち込み、成虫の飛来から発生が始まる。葉裏の表皮下に産卵、幼虫は葉肉内に潜入り、曲線状の食痕を残す。露地では、5月頃から発生がみられ始める。施設では3月以降発生が多くなるが、秋季に侵入すると冬季に若干増殖は鈍るものの栽培期間を通して発生する。 なお、日本未発生病害虫のベクターとなる、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨の報告はない。	薬剤散布(登録農薬がある)	本害虫は、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。	1) 梅谷ら、日本農業害虫大辞典、全国農村教育協会 2) Catalogue of Life 3) 防除ハンドブックトマト、ナス、ピーマンの病害虫
36	節足動物	Lyctus sinensis	ケヤキヒラタキクイムシ	コウチュウ目 (Coleoptera)	ヒラタキクイムシ科 (Lyctidae)	日本(北海道、本州、四国)、中国、韓国、英国	ケヤキ・ナラなどの木材(広葉樹)、タケ(竹材)、乾燥植物性食品、漢方薬	成虫の体長2.8~5.0mm、褐色~黄褐色でしばしば上翅の会合部が暗色になる。年1世代で蛹態で越冬する。主に乾燥した木材・竹材を食し、様々な乾燥植物等も食する貯穀害虫でもある。本種による国内外で被害の報告はない。 なお、日本未発生病害虫のベクターとなる、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨の報告はない。	本種による実害はない。	本害虫は、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。	1) 九州大学、日本産昆虫目録データベース(MOKUROKU), (http://konchudb.agr.kyushu-u.ac.jp/index-j.html) 2) 日本家屋害虫学会(編) 家屋害虫辞典 3) 服部睦作ら 不快害虫とその防除 4) 布村(1968) ヒラタキクイムシの生態と防除(1)
37	節足動物	Nesidiocoris tenuis	タバコカスミカメ	カメムシ目	カスミカメ科	日本(本州、四国、九州)を含む世界中	トマト、カボチャ、タバコ、キュウリ等	体長は3.5~4.0mm。トマト、タバコを加害する報告もあり、成・幼虫が生長点付近の茎、葉柄および葉を吸汁加害する。コナジラミ類の天敵であるため、生物的防除資材として広く有効利用されている。 なお、日本未発生病害虫のベクターとなる、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨の報告はない。	コナジラミ類の発生圃場では、まず天敵として利用し、コナジラミ類の発生が少なくなった時点で薬剤による防除に切り替える。	本害虫は、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。	1) 日本農業害虫大辞典、全国農村教育協会 2) 防除ハンドブックトマト、ナス、ピーマンの病害虫 3) 中石ら(2011) 日本応用動物昆虫学会誌 55(4), 199-205 4) 中石ら(2013) 高知県農業技術センター特別研究報告(13), 1-51, 2013-03

No	分類	学名	和名	目名	科名	発生地域	寄主植物	生態、症状等(媒介性又は被媒介性、系統、変異、国内と海外での被害の差、耐性等に関する情報を含む)	防除	結論	引用文献
38	節足動物	Niphades variegatus	クロコブゾウムシ	コウチュウ目 (Coleoptera)	ゾウムシ科 (Curculionidae)	東シベリア、日本(北海道、本州、四国、九州)	マツ類枯木の皮下等に見られる。	成虫の体長8mm内外。黒色、触角・付節は赤褐色。体表の毛は白く短い。樹皮下に寄生する。本種による国内外において被害の報告はない。なお、日本未発生病害虫のベクターとなる、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨の報告はない。	本種による実害はない。	本害虫は、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。	1)原色昆虫大図鑑 IIコウチュウ篇 北隆館 2)Catalogue of Life online- (http://www.catalogueoflife.org/col/details/species/id/7828987) 3)Invasive Species Compendium online- (http://www.cabi.org/isc/default.aspx?site=144&page=2540&LoadModule1=CABISEARCHRESULTS&LoadAction=LoadAbstract&term=au%3A%22Mamaev%2C+B.+M.%22&AbstractSearchTerm=au%3A%22Mamaev%2C+B.+M.%22&query=au%3A%22Mamaev%2C+B.+M.%22&AbstractID=19870539392)
39	節足動物	Parapoynx diminutalis	クロテンシロミズメイガ	チョウ目 (Lepidoptera)	ツトガ科 (Crambidae)	アジア、日本(九州、南西諸島、山口県)、台湾、中国、東南アジア、インド、アフリカ、豪州、パナマ、ホンジュラス、米国、	クロモ、マツモマツモ、イバラモ属の1種、タチクサネム属の1種 (Illinois pondweed (Potamogeton illinoensis Morong))	1齢幼虫の大きさは1mm、透明、2〜7齢幼虫は白色で、蛹化前に黄色となる。成虫の翅長は10mmほど。成虫が水面に浮かんだ葉や茎に産卵する。孵化幼虫が水草の葉や茎の組織を摂食する。本種による国内外において被害の報告はない。なお、日本未発生病害虫のベクターとなる、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨の報告はない。	本種による実害はない。	本害虫は、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。	1) Julie Baniszewski(2014). University of Florida (http://entnemdept.ufl.edu/creatures/beneficial/parapoynx_diminutalis.htm) 2) 講談社大図鑑 3) 日本産蛾類総目録 4) http://lepidoptera.butterflyhouse.com.au/pter/taprob.html
40	節足動物	Pirkimerus japonicus	コガシラコバネナガカメムシ	カメムシ目 (Hemiptera)	ナガカメムシ科 (Lygaeidae)	中国、日本(本州)	モウソウチク (Phyllostachys pubescens)	成虫は光沢のある黒色で長さ7〜8mm。年4回世代を繰り返す。成虫は、shoot borers and weevils(キクイムシの1種)によって開けられた穴や傷から茎の内部に侵入し、内部を吸汁したり、卵を産む。幼虫も内部で樹液を吸汁する。本種による国内外において被害の報告はない。なお、日本未発生病害虫のベクターとなる、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨の報告はない。	本種による実害はない。	本害虫は、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。	1) C.W. Schaefer et al (2000), Heteroptera of Economic Importance 2) J.A. Slater (1968), A contribution to the systematics of oriental and Australian Blissinae, Pacific Insects 10(2):275-294
41	節足動物	Pnyxia scabiei	ジャガイモクロバネキノコバエ	ハエ目 (Diptera)	クロバネキノコバエ科 (Sciariidae)	北米、中南米、ヨーロッパ、エジプト、日本(北海道、本州、九州)	ジャガイモ、テンサイ、ユリ、ネギ、サツマイモ、インゲン、アズキ、ダイズ、キュウリの地下部	雄の翅長は1.2mm程度、雌は無翅で体長2.2mm、体は黒褐色。老熟幼虫の体長は約3.5mm。成虫は雌雄いずれも飛翔せず、地表面をすばやく歩き回る。幼虫態で越冬し、年5、6回世代を繰り返す。幼虫はジャガイモのほか、鉢植えの花弁類の根部を食する。幼虫がテンサイ根腐病の菌核と菌糸を摂食し、破壊・死滅させる旨の報告もある。なお、日本未発生病害虫のベクターとなる、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨の報告はない。	○薬剤散布(登録農薬がある。食用ゆりのクロバネキノコバエ類) ○発生ほ場では被害残渣を取り除き、発生源を残さないようにする。	本害虫は、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。	1) 日本農業害虫大辞典、全国農村教育協会 2) 内藤ら(1988) ジャガイモクロバネキノコバエによるテンサイ苗立枯病の抑止日植病報 54: 317-318 3) 武衛和雄、松崎沙和子(993) 都市害虫百科 4) 九州大学、日本産昆虫目録データベース(MOKUROKU), (http://konchudb.agr.kyushu-u.ac.jp/index-j.html)
42	節足動物	Rhizoglyphus echinopus	ネダニ	ダニ目 (Acari)	コナダニ科 (Acaridae)	日本(本州)を含む世界各地	ヒアシンス、アマリリス、ネギ属、チューリップ属、スイセン属	成虫は1mm以下でツヤのある白色。年10回程度世代を繰り返し、晩春から初夏にかけて発生が多い。成虫及び幼虫が球根、鱗茎、根を摂食する。近年の被害はロビンネダニ(Rhizoglyphus putrescentiae)が主。なお、日本未発生病害虫のベクターとなる、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨の報告はない。	薬剤散布(登録農薬がある)。	本ダニは、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。	1) CPC 2) 日本原色植物ダニ図鑑 3) Qing-Hai Fan et al. (2003) Rhizoglyphus echinopus and Rhizoglyphus robini (Acari: Acaridae) from Australia and New Zealand: identification, host plants and geographical distribution Systematic & Applied Acarology Special Publications 16, 1-16
43	節足動物	Rusostigma tristylli	サカキコナジラミモドキ	カメムシ目 (Hemiptera)	コナジラミ科 (Aleyrodidae)	日本(本州以南)、台湾、フィリピン	ヤブコウジ属、サカキ属の1種 (Cleyera ochracea)、ヒサカキ属	体色は黄褐色〜鉛色。ほぼ円形。体長1.45〜2.10mm。寄生部位を吸汁することにより、微かな奇形を生じさせる。本種による国内外において被害の報告はない。なお、日本未発生病害虫のベクターとなる、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨の報告はない。	本種による実害はない。	本害虫は、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。	*1) Evans, G. A. (2008) The whiteflies (Hemiptera, Aleyrodidae) of the World (P412)(見つかありません) *2) Insect Fauna of Taiwan (http://insect.biota.biodiv.tw/pages/1769)

No	分類	学名	和名	目名	科名	発地域	寄主植物	生態、症状等(媒介性又は被媒介性、系統、変異、国内と海外での被害の差、耐性等に関する情報を含む)	防除	結論	引用文献
44	節足動物	Selenothrips rubrocinctus	アカオビアザミウマ	アザミウマ目 (Thysanoptera)	アザミウマ科 (Thripidae)	アフリカ、日本(奄美、沖縄、小笠原)を含むアジア、豪州、NZ、中南米、北米の亜熱帯、熱帯域	アブラギリ属の1種 (Vernicia fordii (central China wood oil tree))、アボガド、エノキグサ、カカオ、カシューナッツ、キバナノオゴチョウ、クロトンノキ、サンショウモドキ、バナバ、パンジロウ、フトモモフトモモ、ベニノキ、マホガニー属の1種 (Swietenia mahagoni (Cuban mahogany))、マンゴウ、マンゴスチン、モモタマナ、ラッカセイ、コーヒーノキ属、サンショウ属、テリハボク属、ピンロウジュ属、ブドウ属、マカダミア属、ワタ属	成虫は約1.0-1.4mm、暗褐色～黒色。幼虫は黄白色～黄色。幼・成虫が葉や果実に寄生し、吸汁する。被害葉は艶が無くなり、灰色～暗褐色に変色したり変形し、果実も表面が灰色～褐色に変色し、幼虫の排泄物による汚損も加わる。前蛹及び蛹態は接食活動は行わない。Tospovirusesを媒介する報告はない。なお、日本未発生病害虫のベクターとなる、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨の報告はない。	○薬剤散布(登録農薬がある)。 ○施設開口部への防虫ネット被覆など耕種的防除。	本害虫は、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。	1) CPC 2) 山口(2007) 奄美大島のハウスマンゴーにおけるチャノキイロアザミウマとアカオビアザミウマの花芽、花房ならびに果実での発生推移 九病虫研究会報 53:103-106(2007) 3) 山口(2012) 植物防疫 66巻 11号 4) B Lindqvist(1981) 5) A. Goldarazena et al (2012) Check List 8(6): 1232-1247, 2012 6) Pest Thrips of North America 7) M. Mirab-balou et al (2014) Journal of Entomological and Acarological Research 2014, Vol 46:1828 85-89 8) Thrips of California (http://keys.lucidcentral.org/keys/v3/thrips_of_california/identify-thrips/key/california-thysanoptera-2012/Media/Html/browse_species/Selenothrips_rubrocinctus.htm)
45	節足動物	Sitobion ibarae	イバラヒゲナガアブラムシ	カメムシ目 (Hemiptera)	アブラムシ科 (Aphididae)	日本(北海道、本州、四国、九州)、朝鮮半島、台湾、中国、スマトラ、フィリピン	栽培種及び野生種のバラ類。バラ、ノイバラ。	無翅胎生雌虫は体長約3mm、有翅胎生雌虫の体長は約2.5～2.7mm。公園や庭で普通に見られる。寄主植物で周年生活し、寒冷地方では卵越冬、暖地では成虫や幼虫で越冬する。成・幼虫が寄主植物の新芽や新梢の先端部、新葉、花蕾に群棲して摂食する。排泄物にすす病が発生する。なお、日本未発生病害虫のベクターとなる、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨の報告はない。	薬剤散布(登録農薬がある)。	本害虫は、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。	1) 日本原産アブラムシ図鑑(全国農村教育協会)には「イバラヒゲナガアブラムシ(Macrosiphum rosae ibarae)」はあるが、「Sitobion ibarae」はない。 2) 原色樹木病害虫図鑑には「イバラヒゲナガアブラムシ(Macrosiphum ibarae)」として記述。 3) 防除ハンドブック 花の病害虫
46	節足動物	Spoladea recurvalis	シロオビノメイガ	チョウ目 (Lepidoptera)	ツトガ科 (Crambidae)	朝鮮半島、中国、日本(北海道、本州、小笠原、四国、九州、南西諸島)、東南アジア、オーストラリア、北アメリカ	幼虫はホウレンソウ、アカザ、フダンソウ、テンサイなどのアカザ科植物、ケイトウ、アマランサス、アオビユ、コキア(ホウキギ)、などのヒユ科植物の葉を食害する。ウリ類も食草として記録	従来蛹越冬と考えられていたが、越冬ではなく南方からの飛来と考えられている。幼虫が葉を2～3枚を綴り、それらの葉肉を摂食する。土中で蛹化越冬し6月頃から見られ晩秋まで発生は続く。イヌビユやアカザ等雑草地に発生して飛来してくる。なお、日本未発生病害虫のベクターとなる、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨の報告はない。	薬剤散布(登録農薬がある)。	本害虫は、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。	1) 九大目録 2) 梅谷 献二、岡田 利承(2003)、日本農業害虫大事典、全国農村教育協会 3) 防除ハンドブック 花の病害虫
47	節足動物	Stenhomalus taiwanus	タイワンメダカカミキリ	コウチュウ目 (Coleoptera)	カミキリムシ科 (Cerambycidae)	日本(本州、伊豆諸島、四国、九州、対馬、沖縄諸島)、朝鮮半島、台湾、中国	サンショウ、イヌザンショウ、カラスザンショウ(ミカン科サンショウ属)	体長4.5～7.5mm。年1世代。成虫は、弱った枝に卵を産み、幼虫が幹の中で活動し、越冬する。幼虫の樹幹内への食入はあるが、本種による国内外において被害の報告はない。なお、日本未発生病害虫のベクターとなる、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨の報告はない。	本種による実害はない。	本害虫は、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。	1) 日本産カミキリムシ 2) Tsinghua Tongfang Knowledge Network Technology Co., Ltd.-online(http://en.cnki.com.cn/Article_en/CJFDTOTAL-ZBJS2007111004.htm)
48	節足動物	Stenoptilodes taprobanes	トキンソウトリバ	チョウ目 (Lepidoptera)	トリバガ科 (Pterophoridae)	日本(北海道、本州、四国、九州、対馬、南西諸島)、台湾、マレーシア、ハワイ、欧州、米国、インド、ケニア、マダガスカル、ニジェール、スーダン、タンザニア、ウガンダ、ハワイ	トキンソウ(キク科)、スノキ属等	成虫は前翅長7mm。幼虫が葉を摂食する。本種による国内外において被害の報告はない。なお、日本未発生病害虫のベクターとなる、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨の報告はない。	本種による実害はない。	本害虫は、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。	1) 九州大学、日本産昆虫目録データベース(MOKUROKU), < http://konchudb.agr.agr.kyushu-u.ac.jp/index-j.html > 2) CPC 3) Bashir, M. O.; Musselman, L. J. Tropical Pest Management; 1984. 30(2):211-212. 10 ref. Some natural enemies of Striga hermonthica in the Sudan.
49	節足動物	Tebenna micalis micalis	ゴボウハマキモドキ	チョウ目 (Lepidoptera)	ハマキモドキガ科 (Choreutidae)	欧州、中国、日本(本州、四国、九州、沖縄本島)、中東、北アフリカ、豪州、NZ	ゴボウ、シュンギクなどのキク科	成虫の前翅長は4～5mm、卵は経0.3mm、老熟幼虫は体長8～9mmで、頭部が淡褐色、胴部は淡黄緑色。年3、4回世代を繰り返す。卵は葉の裏に1粒ずつ産み付けられる。孵化幼虫が葉を摂食する。なお、日本未発生病害虫のベクターとなる、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨の報告はない。	○葉が透ける被害症状が出たら幼虫を捕殺する。 ○アブラムシ等の薬剤散布をしていれば発生しない。	本害虫は、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。	1) 日本農業害虫大事典、全国農村教育協会 2) 講談社大図鑑 3) Wikipedia(英語版)"Tebenna micalis"

No	分類	学名	和名	目名	科名	発地域	寄主植物	生態、症状等(媒介性又は被媒介性、系統、変異、国内と海外での被害の差、耐性等に関する情報を含む)	防除	結論	引用文献
50	節足動物	Tenothrips frici	テノスリップス・フリキ	アザミウマ目 (Thysanoptera)	アザミウマ科 (Thripidae)	日本(本州)、中国、インド、イラン、カザクスタン、オーストリア、チェコ、スロバキア、ルーマニア、ハンガリー、ヨーロッパ~地中海沿岸のアフリカ、北米、アルゼンチン、ウルグアイ、ハワイ、オーストラリア、ニュージーランド	キク科草本、特に雑草類	雌成虫の体長1.4~1.6mm、体色は一律に褐色~暗褐色。花に寄生する。本種による国内外において被害の報告はない。Tospovirusesを媒介する報告もない。 なお、日本未発生病害虫のベクターとなる、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨の報告はない。	本種による実害はない。	本害虫は、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。	1) 榊本ら(2002) 東日本における港頭地域のアザミウマ(3)日本初記録の Tenothrips 属(Thysanoptera: Thripidae) 植物防疫所調査研究報告 (38), 53-57, 2002-03-00 2) Thrips of California 3) Oz Thrips 4) Majid Mirab-balou (2013) A new record for China of Tenothrips frici Iranian Journal of Entomology 3, 9-13
51	節足動物	Tetranychina harti	カタバミハダニ	ダニ目 (Acari)	ハダニ科 (Tetranychidae)	日本(本州、四国、九州、沖縄本島)を含む世界各地	カタバミ属、オランダイチゴ属、カッコウアザミ、ペチュニア、ジャジャクソウ属、ムラサキウマゴヤシ	雌は赤色で丸く、体長0.65mm内外。雄は胴背毛は短く、体長は0.39mm。卵態で夏眠し、春季から初夏に発生する。産雌単為生殖をする。摂食のあとが斑点状になり、やがて黄変するが、被害の報告はない。 日本未発生病害虫のベクターとなる、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨の報告はない。	薬剤散布(登録農業がある)。	本ダニは、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。	1) 日本原色植物ダニ図鑑 2) CPC 3) D.S. Koveos et al (1989) Influence of Photoperiod, Temperature and Host Plant on the Production of Diapause Eggs in Petrobia (Tetranychina) harti (Acari: Tetranychidae) Experimental & Applied Acarology, 6 (1989) 327-342
52	節足動物	Tetranychus piercei	ミヤラナミハダニ	ダニ目 (Acari)	ハダニ科 (Tetranychidae)	日本(本州、九州、沖縄)、中国、フィリピン、インドネシア等、東アジアから東南アジアの温帯~熱帯地域にかけて広く分布	インゲンマメ、シカクマメ、スイカ、トウガン、ピーマン、ヘチマ、ナス、アテモヤ、ゴレンシ、バナナ、パパイヤ、パンレイシ、モモ、バナナ 農作物以外にタイワンズ(マメ科)やシマグワ(クワ科)、エノキグサ(トウダイグサ科)等の野生植物への寄生頻度が高い	雌成虫の体長は約0.5 mm、胴体部は赤色。産雌単為生殖。多種の農作物や野生植物に寄生する。葉裏に寄生し、吸汁箇所を白化、又は黄化させる。沖縄県ではもともともありふれたハダニの種のひとつであり、農作物(主として野菜・果樹類)と野生植物の双方から高い頻度で発見されるが、九州以北ではまれな種であり、農作物の被害事例も少ない。 なお、日本未発生病害虫のベクターとなる、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨の報告はない。	薬剤散布(登録農業がある)。	本ダニは、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。	1) 日本原色植物ダニ図鑑 2) 日本農業害虫大辞典 3) 大野ら(2010) 沖縄に分布する Tetranychus 属ハダニ9種に対する各種農業の殺虫効果 九病虫研会報 56: 58-65 4) CPC 5) Ehara S. (1999) Revision of the spider mite family Tetranychidae of Japan (Acari, Prostigmata) . Jap. Soc. Svs. Zool. 63-141.
53	節足動物	Tetropium castaneum	トドマツカミキリ	コウチュウ目 (Coleoptera)	カミキリムシ科 (Cerambycidae)	中国(北海道、本州(中部地方、紀伊半島))、日本、カザフスタン、北朝鮮、韓国、モンゴル、カナダ、米国、アルバニア、オーストリア、ベラルーシ、ベルギー、ボスニア・ヘルツェゴビナ、ブルガリア、クロアチア、チェコ、デンマーク、エストニア、フィンランド、フランス、ドイツ、ギリシャ、ハンガリー、イタリア、ラトビア、リトアニア、ルクセンブルク、モルドバ、オランダ、ノルウェー、ポーランド、ルーマニア、ロシア、セルビア、スロバキア、スロベニア、スペイン、スウェーデン、スイス、ウクライナ、英国	モミ属、シベリアモミ、トウヒ属、オウシュウトウヒ、シベリアトウヒ、マツ属、ペニマツ、カエデ属、クルミ属、カラマツ属、シベリアカラマツ、ヨーロッパアカマツ、カシ属の枯れ木や乾燥した木	成虫は8-19mm。成熟幼虫は18-22mm、蛹は12-19mm。山地に生息し、生活環は1~2年。成虫は針葉樹の新鮮な伐採木に集まり、樹皮の割れ目に産卵する。幼虫が樹皮内や樹木の形成層や節部に穿孔して加害する。樹木内で蛹化し、春に蛹化する。枯れ木や乾燥した木を加害する。病原菌を媒介する報告はない。原産国及び侵入国において、主要な害虫ではなく、二次性害虫に位置づけられ、経済的な被害の報告はない。 なお、日本未発生病害虫のベクターとなる、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨の報告はない。	本種による実害はない。	本害虫は、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。	1) K. Tamanuki(1933) A list of the longicorn-beetle from Saghalien, with the descriptions of one new species, one new variety and one new aberrant form(in English with Japanese summary) Insecta Matsumurana 8(2): 70,84, 2) 日本産カミキリムシ 3) CPC 4) APHIS/USDA(2011) New Pest Response Guidelines. Exotic Wood-Boring and Bark Beetles. (https://www.aphis.usda.gov/import_export/plants/manuals/emergency/do wnloads/nprg-wood_boring_bark_beetles.pdf)
54	節足動物	Tetropium gracilicorne	ツヤナシトドマツカミキリ	コウチュウ目 (Coleoptera)	カミキリムシ科 (Cerambycidae)	中国、日本(北海道、本州)、北朝鮮、カザフスタン、モンゴル、ロシア	トウシラベ、グイマツ、シベリアカラマツ、エゾマツ、チョウセンゴヨウ、ペニマツ、ヨーロッパアカマツ	幼虫は16~19mm、蛹は11~17mm。成虫は9~16mm。1年1世代。主に衰弱した樹に産卵するが、健全樹にも産卵することがある。幼虫は樹幹内部に食入し蛹になる。寄主植物を食害する。発生国では、枯死にいたるような大きな被害はないが、被害樹は樹勢が衰える。 なお、日本未発生病害虫のベクターとなる、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨の報告はない。	管理により樹勢強化に努める。	本害虫は、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。	1) CPC 2) EPPO(2005) Data sheets on quarantine pests. Tetropium gracilicorne 3) H. Vanhanen et al (2008). Potential distribution ranges in Europe for Aeolesthes sarta, Tetropium gracilicorne and Xylotrechus altaicus, a CLIMEX analysis. EPPO Bulletin Vol 38, Issue 2, pp 239-248

No	分類	学名	和名	目名	科名	発地域	寄主植物	生態、症状等(媒介性又は被媒介性、系統、変異、国内と海外での被害の差、耐性等に関する情報を含む)	防除	結論	引用文献
55	節足動物	<i>Thrips coloratus</i>	ビワハナアザミウマ	アザミウマ目 (Thysanoptera)	アザミウマ科 (Thripidae)	パキスタンから日本、豪州にかけて広く分布。東南アジア、中国、台湾、インド、タイ、パキスタン、スリランカ、ニューギニア、オーストラリア、日本(本州、四国、九州)、朝鮮半島	カーネーション、センジュギク、フヨウ、ミカン科(ミカン属)、カキ、ビワ、チャノキ、イチジク、キク科(キク属、アオノキリソウ属)、マメ科(ハギ属、プエラリア属、シャジクウ属、インゲンマメ)、ブドウ、タマネギ、タバコ、バラ	雌成虫は1.3mm、雄成虫は1mm内外。幼虫及び成虫が花に寄生する。早春から初冬まで活動し、年間数世代以上を繰り返す。多くの植物の花に寄生するが、個体数が少ないので単独では実害はない。なお、日本未発生病害虫のベクターとなる、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨の報告はない。	薬剤散布(登録農薬がある)。	本害虫は、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。	1) 日本農業害虫大辞典、全国農村教育協会 2) CPC 3) OZ Thrips (http://www.ozthrips.org/terebrantia/thripidae/thripinae/thrips-coloratus/) 4) Mound LA & Masumoto M. 2005. The genus Thrips (Thysanoptera, Thripidae) in Australia, New Caledonia and New Zealand. Zootaxa 1020: 1-64 5) 九大目録 6) N.S.Talekar(1991), Thrips in Southeast Asia
56	節足動物	<i>Thrips minutissimus</i>	スリップス・ミニヌティシムス	アザミウマ目 (Thysanoptera)	アザミウマ科 (Thripidae)	欧州、イラン、トルコ、日本(本州)	マツ、イヌマキ、ハンノキ、ヤナギ、リンゴ、西洋ナシ、サクランボ、西洋スモモ、カシ属、クマデシ属等	体長1.2~1.5mmほど、体色は淡褐色~暗褐色。年1世代。蛹又は成虫で越冬する。様々な樹冠に生息し、花、若葉、花芽、葉芽から散見されるが、世界的に見ても植物への被害に関する報告は極めて少ない。なお、日本未発生病害虫のベクターとなる、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨の報告はない。	薬剤散布(登録農薬がある)。	本害虫は、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。よって、施行規則別表1で規定する検疫有害動植物から外し、検疫有害動植物として新たに規定する。	1) M. Masumoto et al (2013). Review of the genus Thrips and related genera (Thysanoptera, Thripidae) from Japan. Zootaxa 3678 (1): 001-065 2) 福島大学 アザミウマ目 (http://www.sss.fukushima-u.ac.jp/~thrips-tsumi/research/fauna-FPA/pg124.html) 3) David V Alford(2014) Pests of Fruit Crops: A Colour Handbook, Second Edition. P30 CRC press 4) H. Kucharczyk et al(2013) Characteristic and diagnostic features of the most frequently occurring species of the Thripidae family (Insecta, Thysanoptera) in crown canopies of Central European forests. Forest Research Papers March 2013, Vol. 74 (1): 5-11. 5) Gargani, E.(1996) Thrips damage to peach in Tuscany(abstract). Journal Redia 1996 Vol. 79 No. 2 pp. 207-221 6) J. Pizzol et al (2014). Species and population dynamics of thrips occurring inside and outside greenhouses cultivated with roses in southern France. Journal of Agricultural Policy and research. 2(4) : 141-153
57	節足動物	<i>Tyrophagus similis</i>	ハウレンソウケナガコナダニ	ダニ目 (Acari)	コナダニ科 (Acaridae)	日本(北海道、本州、四国、九州、南西諸島)を含む世界各地、	ハウレンソウ	胴長は雌で0.4~0.7mm、雄で0.3~0.6mm。乳白色で胴部背面に毛を有する。成虫は主にハウレンソウの外側を中心に産卵し、新芽や新葉を吸汁加害し、小さな穴を開ける。発生は3~6月のハウス栽培のハウレンソウで多く、露地では少ない。なお、日本未発生病害虫のベクターとなる、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨の報告はない。	薬剤散布(登録農薬がある)。	本ダニは、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。	1) 日本原色植物ダニ図鑑 2) 日本農業害虫大辞典 3) 増田(2010) ハウレンソウケナガコナダニの土壌から寄主植物への移動 北日本病害虫研究会報 (61), 186-188, 4) 春日・天野(2000) 管理戦略の確立へ向けたケナガコナダニ属のハウレンソウ加害実態調査 日本ダニ学会誌 9(1), 31-42 5) 齊藤(2012) 作物加害性コナダニ類の生物学的防除に関する研究、北海道立総合研究機構 農業試験場報告 第135号
58	節足動物	<i>Xyleborus pfeili</i>	ファイルクイムシ	コウチュウ目 (Coleoptera)	キクイムシ科 (Scolytidae)	日本全国、北朝鮮、韓国、シベリア、中国、米国、NZ、オーストラリア、ベルギー、ブルガリア、チェコスロバキア、フランス、ドイツ、ギリシャ、ハンガリー、イタリア、ポーランド、ルーマニア、スペイン、スイス、ソビエト西部、トルコ、アルジェリア、モロッコ	カラマツ、トドマツ、チョウセンゴヨウマツ、ダグラスファー、ヘムロック、ラジアタパイン	雌は赤茶色のシリンダー形で3-3.6mm、脚は淡黄色。東アジア原産の養菌性キクイムシ。伐採された木、倒木等に食入穿孔する。本種による国内外で被害の報告はない。なお、日本未発生病害虫のベクターとなる、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨の報告はない。	本種による実害はない。	本害虫は、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。	1) 松田ら(1997) 人工飼料による養菌性キクイムシ <i>Xyleborus pfeili</i> (RATZEBURG) の飼育 植物防疫所調査研究報告 (植防研報) 第33号: 81~85 2) J Natialia et al (2000) New Records of Two <i>Xyleborus</i> (Coleoptera: Scolytidae) in North America Proc. Entomol. Soc 102(1) : 62-68 3) 後藤秀章. (2009). 日本産キクイムシ類分類学研究的の歴史と種のリスト. 日本森林学会誌, 91(6), 479-485. 4) <i>Xyleborus Ambrosia</i> Beetles http://xyleborini.myspecies.info/taxonomy/term/1034/descriptions 5) R.J. Rabaglia et al(2006) Review of American <i>Xyleborina</i> (Coleoptera: Curculionidae: Scolytinae) Occurring North of Mexico, with an Illustrated Key. Ann. Entomol. Soc. Am. 99(6): 1034-1056 (2006)
59	節足動物	<i>Xylotrechus rufilius</i>	クビアカトラカミキリ	コウチュウ目 (Coleoptera)	カミキリムシ科 (Cerambycidae)	日本(北海道、本州、佐渡、四国、九州、対馬、天草、屋久島、隠岐)、サハリン、朝鮮半島、アジアロシア、中国北東部	カエデ属、ニレ属、トネリコ属の伐採木や倒木	体長9~13mm。雌の体色は黒色。成虫は6~9月に出現。雌は枯れ木や倒木の樹皮の隙間に1個又は塊で産卵する。幼虫は皮内や辺材部を食害し、樹皮下で蛹化する。国内に2亜種が分布。また国外の亜種との被害の差はなく、本種による実害はない。 ・ <i>Xylotrechus rufilius rufilius</i> (クビアカトラカミキリ) ・ <i>Xylotrechus rufilius kadowakii</i> (オキクビアカトラカミキリ) なお、日本未発生病害虫のベクターとなる、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨の報告はない。	本種による実害はない。	本害虫は、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。	1)九州大学, 日本産昆虫目録データベース(MOKUROKU), < http://konchudb.agr.agr.kyushu-u.ac.jp/index-j.html > 2)新訂原色昆虫大図鑑第II巻(甲虫編), 北隆館 3)Kimoto, T., & Duthie-Holt, M. (2004). Exotic forest insect guidebook. Plant Pest Survey Unit, Canadian Food Inspection Agency.
60	線虫	<i>Aphelenchoides fragariae</i>	イチゴセンチュウ	Aphelenchidaes	アフエレンコイデス科 (Aphelenchoididae)	日本(北海道、本州、四国、九州)を含む世界各地の温帯から熱帯の地域	寄主範囲は広く、日本で確認されている寄主: イチゴ、ワサビ、キク、ユリ、シャクヤク、センリョウ、バルディア、ペゴニア、ボタン等	雌成虫は体長0.6-0.8mmで、口針が体長に比べ短い。葉の裏面の組織内に侵入し増殖する。寄生を受けた葉は、太い葉脈を境にして退色した部位と寄生されずに緑色を保った部分がモザイク状を示す。なお、日本未発生病害虫のベクターとなる、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨の報告はない。	○被害株は抜き取り、伝染源とならないようにする。 ○保虫の恐れのある親株から○採苗した株は使用しない。 ○収穫終了圃場は、陽熱処理もしくは殺センチュウ剤処理を行う。 ○生育期間中の薬剤散布(登録農薬あり)を行う。	1) 日本農業害虫大辞典、全国農村教育協会 2) CPC 3) 線虫研究の歩み、日本線虫研究会	

No	分類	学名	和名	目名	科名	発地域	寄主植物	生態、症状等(媒介性又は被媒介性、系統、変異、国内と海外での被害の差、耐性等に関する情報を含む)	防除	結論	引用文献
61	その他無脊椎動物	Austropeplea ollula	ヒメモノアラガイ	有肺目 (Pulmonata)	モノアラガイ科 (Lymnaeidae)	中国、台湾、日本全国	植食性、藻類を摂食。	殻高約10mm、殻幅は約8mm。卵形の巻き貝で、殻は質が薄く半透明。微小な藻類をヤスリ状の歯舌で削り取って摂食するが、種類によっては動物の死骸なども摂食する。本種について、国内外で農業被害の報告はない。 なお、日本未発生病害虫のベクターとなる、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨の報告はない。	本種による実害はない。	本種は、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。	1) 河川生態ナレッジデータベース(online)- (http://kasenseitai.niim.go.jp/index.php/%E3%83%92%E3%83%A1%E3%83%A2%E3%83%8E%E3%82%A2%E3%83%A9%E3%82%AC%E3%82%A4) 2) 愛知県：準絶滅危惧、(online)-(http://www.pref.aichi.jp/kankyosizen-ka/shizen/yasei/rdb/kai/animals_568.pdf)
62	その他無脊椎動物	Gyraulus chinensis	ヒラマキミズマイマイ	有肺目 (Pulmonata)	ヒラマキガイ科 (Planorbidae)	アイルランド、ノルウェー、スペイン、中国、北朝鮮、韓国、日本(北海道、本州、四国、九州、沖縄)、フィリピン等	植食性、藻類	右巻きの小さな貝で、殻高約1.8mm、殻径約6mmになる。ヒラマキガイ類は主に植食性で、微小な藻類をヤスリのような歯舌で削り取って摂食する。本種について、国内外で農業被害の報告はない。 なお、日本未発生病害虫のベクターとなる、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨の報告はない。	本種による実害はない。	本種は、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。	1) 河川生態ナレッジデータベース 2) Discover life, (online)-(http://www.discoverlife.org/mp/20q) 3) 栗飯原一郎、小西正泰、水辺の生物、(online)- (http://www.water.go.jp/honsya/honsya/referenc/seibutu/pdf/other/0511_hiramakimizumaimai.pdf)
63	その他無脊椎動物	Lehmannia valentiana	チャコウラナメクジ	有肺目 (Pulmonata)	コウラナメクジ科 (Limacidae)	スカンジナビア半島北部を除くヨーロッパ全域、日本全国、韓国、豪州、メキシコ	広食性。藻、苔、キノコ	孵化後30~120日程度で体長が5~10mmになり、1年後50~60mmに達する。寿命は2.5~3年程度。卵は土中に有り、年に数回孵化する。都市環境に適し、現在人家周辺でもっとも普通に見られるナメクジ。主に樹木、朽ちた木の樹皮の下に生息するが、葉で覆われた木や壁があれば、庭でも生息可能。 なお、日本未発生病害虫のベクターとなる、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨の報告はない。	○高湿度を好むので、作物残渣、鉢物、資材などを置かないようにする。 ○餌を置いたり隠れ場所を作り、集まったものを捕殺する。 ○発生が多い場合には薬剤散布する。	本種は、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。	1) 原色日本陸産貝類図鑑 2) 日本の動物分布図集(2010). 環境省生物多様性センター 3) AnimalBase(http://www.animalbase.uni-goettingen.de/zooweb/servelet/AnimalBase/home/speciestaxon?id=6527) 4) 防除ハンドブック アブラナ科野菜の病害虫、トマト、ナス、ピーマンの病害虫
64	その他無脊椎動物	Limax flavus	キイロナメクジ	有肺目 (Pulmonata)	コウラナメクジ科 (Limacidae)	カナダ、米国、ハワイ、アルゼンチン、南アフリカ、オーストラリア、スペイン、ギリシア、オランダ、グルジア、アイルランド、英国、ウズベキスタン、エジプト、タンザニア、ドイツ、スイス、オーストリア、シリア、ノルウェー、ロシア、中国、日本(本州、四国、九州、周辺島嶼)、マダガスカル	広食性。	うすい縦線が有り、大形で体長10~20cm、青白い褐~灰色。広食性で、成及び幼虫が各種の野菜や花卉を食害する。年1回の発生で、春~秋に産卵する。日中はほ場内の資材やマルチなどの下に潜伏し、夜間活動する。通常、冬期は休眠状態にあるが、施設内では冬期も活動する。 なお、日本未発生病害虫のベクターとなる、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨の報告はない。	○夜行性で日中は落ち葉の下などの隠れ場所に潜むため、圃場の落葉や雑草管理を徹底する。 ○薬剤散布(登録農薬がある)。	本種は、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。	1) 原色日本陸産貝類図鑑 2) 日本農業害虫大辞典 3) EARLY ZOOLOGICAL LITEATURE ONLINE 4) Encyclopedia of life 5) Discovery of life 6) Life Desks Serving your biodiversity community 7) Henssen Palaeo Werkstatt
65	その他無脊椎動物	Meghimatium bilineatum	ナメクジ	有肺目 (Pulmonata)	ナメクジ科 (Philomycidae)	中国、台湾、日本全国、極東ロシア、ハワイ、グアテマラ	広食性。都市部の公園、庭、墓地の草木や石、枯死した木で見つかる。	成体で約60mm。背面には3本の縦線があるが、両側の2本がよく目立つ。外套は背中を被うが貝はない。広食性。成・幼体が各種の花や野菜類を食害するが、キャベツ、ハクサイなどは、幼苗期にはしばしば生長点を食害される。周辺の雑草地からの侵入個体や圃場内残存虫が発生源になる。日中は株元や敷きワラ下等に潜み、夜植物体上にはい上がって食害する。 なお、日本未発生病害虫のベクターとなる、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨の報告はない。	○高湿度を好むので、作物残渣、鉢物、資材などを置かないようにする。 ○餌を置いたり隠れ場所を作り、集まったものを捕殺する。 ○発生が多い場合には薬剤散布する。	本種は、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。	1) 原色日本陸産貝類図鑑 2) 日本の動物分布図集(2010). 環境省生物多様性センター 3) Encyclopedia of life 4) Discovery of life 5) 日本農業害虫大辞典 6) 防除ハンドブック トマト、ナス、ピーマンの病害虫
66	その他無脊椎動物	Paropeas achatinaceum	トクサオカチョウジガイ	有肺目 (Pulmonata)	オカクチキレガイ科	東南アジア、日本(関東以西)	雑食性	細長い巻き貝で殻高10mm。インドネシア原産の外来種。平地部の地表に生息することが知られているが、生態等の詳細は明らかとなっていない。同属他種では農作物の被害があるが、本種について、国内外で農業被害の報告はない。 なお、日本未発生病害虫のベクターとなる、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨の報告はない。	本種による実害はない。	本種は、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。	1) 原色日本陸産貝類図鑑 2) 独立行政法人 国立環境研究所 侵入生物データベース http://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/resources/listja_misarthropods.html
67	その他無脊椎動物	Subulina octona	オカクチキレガイ	有肺目 (Pulmonata)	オカクチキレガイ科	西インド諸島原産、カリブ海、熱帯アメリカ、フィリピン等世界の熱帯地域、日本(西日本、奄美諸島、小笠原諸島)	雑食性	細長い巻き貝で殻高15mm、西インド諸島原産の外来種。平地部の地表に生息することが知られているが、生態等の詳細は明らかとなっていない。同属他種では農作物の被害があるが、本種について、国内外で農業被害の報告はない。 なお、日本未発生病害虫のベクターとなる、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨の報告はない。	本種による実害はない。	本種は、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。	1) 原色日本陸産貝類図鑑 2) 日本の動物分布図集(2010). 環境省生物多様性センター 3) 独立行政法人 国立環境研究所 侵入生物データベース http://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/resources/listja_misarthropods.html

No	分類	学名	和名	目名	科名	発地域	寄主植物	生態、症状等(媒介性又は被媒介性、系統、変異、国内と海外での被害の差、耐性等に関する情報を含む)	防除	結論	引用文献
68	その他無脊椎動物	Zonitoides nitidus	オオコハクガイ	有肺目 (Pulmonata)	コハクガイ科 (Zonitidae)	北米、全ヨーロッパ、北アメリカ、アジア、日本(北海道、東北、佐渡島、八丈島、伊豆三宅島)	多くの植物等、多食性	殻高2.6mm、殻径6mm。コハクガイによく似るが、より大型で臍孔も大きいことで区別できる。朽ち木や樹幹に付着するが、本種による農業被害の報告はない。 なお、日本未発生病害虫のベクターとなる、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨の報告はない。	日本未発生病害虫のベクターとなる、国内外で異なる系統・変異等が存在する旨の報告はない。	本種は、日本に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。	1) www.museum.kyoto-u.ac.jp/collection/Shell/Shell00001389.htm 2) 日本の動物分布図集(2010). 環境省生物多様性センター 3)CPC 4)貝類、世界文化社 5)原色日本陸産貝類図鑑